



教皇様の叡

マリアは病者の母

〈第四回世界病者の日に寄せて〉

1

「今の病気のことも他のどんな災いも、心配には及びません。母である私があなたのそばで、守っているではありませんか。」一五三一年十二月、テペヤクの丘のふもとで、親類の者の治療を願った貧しいインディオのファン・ディオゴは聖なる処女の語りかける声を聞きました。現在の地はグアダルーベと呼ばれています。

メキシコ教会がグアダルーベの聖母の戴冠百周年(一八九五〜一九九五年)を祝う今、メキシコシティのこの著名な聖堂で一九九六年二月十一日の世界病者の日の盛儀が行なわれるのはまことに意義深いことです。

この日は、紀元二千年を迎え

るための準備期間の第一段階(一九九四〜一九九六年)のまんな中に当たります。それは「人間の歴史における紀元二千年の聖年の価値と意味についてのキリスト者の意識を活性化することを意図しています。」(「紀元二千年の到来」31番)教会は同時代の出来事を信頼の日で眺め、「今世紀の終わりに現われている希望のしるし」の内に「人間生活にとって有益な科学的、技術的、医学的な進歩」のあったことを認めます。(前掲書46番)これこそは「病人の快復」である聖母マリアの存在に勇気づけられて、第四回世界病者の日の準備の一環として申し上げたいことなのです。これは

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1996 発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町1 2-6
TEL 0797-31-3452・FAX 0797-31-3448

2

心と身体に苦しみを負う人々、また苦しむ人に愛のこもった奉仕を行ない、賤い主に忠実に倣おうとする全ての人々にとって希望のしるしだと思います。実に、「貧しい人に福音を伝え、傷ついた心の人々を癒し」(ルカ4・18)、「失われたものを捜して救う」(同19・10)ため父から遣わされたキリストのよう、「教会も、人間的弱さに苦しむ全ての人を愛をもって包み、さらに貧しい人や苦しむ人のうちに、貧しく苦しんだその創立者の姿を認める」(教会憲章8番)のです。

イエズスの御母は私たちの模範であり、導き手

今、それぞれに苦しんでおられる兄弟姉妹の皆さん。皆さんは新たな福音宣教において、特別な使命に召されています。人類の苦しみと愛の御母マリアが皆さんを励ましてく

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1996 発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町1 2-6
TEL 0797-31-3452・FAX 0797-31-3448

ださいます。医療に携わる人々、家族たち、日々の苦しみの中でも皆さんの傍らにいるボランティアも皆さんを支え、この困難な使命を助けてくれるでしょう。使徒的書簡「紀元二千年の到来」の中でも思い起こしています。紀元二千年という大きな祝いを迎えるための「全準備期間を通じて(間接的に)存在しているかのような、幸いなおとめマリア」は「神と隣人

「苦しむ人を物質的に助けるのみならず、信仰という慰めに満ちた展望を示して霊的にも支えてくれるような、寛大な心の人々をもっと送ってくださるよう、主にお願いたいと思います。」

二月十一日の世界病者の日に寄せて、教皇さまのメッセージの全文を掲載します。

への愛の完全な模範」であり、「キリストがあなたに言いつけることを何でもしなさい」という母親のような声を再び聞くのです。(43番、54番参照)

病人の快復であるマリアの心からのこの招きに答える時、皆さんは新たな福音宣教に独自の

3

一步をしるします。それは、苦しみの福音が示すことを秘義という面から考察し、生命の福音を宣言することでもあります。

(「生命の福音」1番、「苦しみのキリスト教的意味」3番参照)「医療のための組織だった使徒職は、福音宣教の使命の一翼を担っている。」(教皇庁ラテン・アメリカ評議会総会でのお話、一九九五・七・二二六)

イエズスの御母は、この効果的な宣教の模範であり、導き手です。なぜなら聖母は「人々の窮乏と貧困と苦悩の現実の中で、彼らとイエズスの間に立っています。マリアは(間に入り)ますが、それは第三者的な仲介者としてではなく、母の立場で御子に人々の必要とするものを示すことができ、いやむしろ示す「権利を有する」ことを意識している者としてなのです。従ってマリアの仲介は取りなしの性格を持っており、マリアはあらゆる人々のために「取りなし」をするのです。さらにマリアは母として、御子の救い主としての能力、すなわち不幸な人を助け、形も深さもさまざまに人生に重くのしかかる悪から人を解放する能力が示されることを望んでいます。」(回勅「救い主の御母」21番)

仲介という使命を通して病人の快復である聖母は常に教会生活の中にあり、教会の始めの頃と同じ役割を（使徒行録1・14参照）今も続けておられます。聖母は「人々を再生するために教会の使徒的使命に協力する人々が持つべき母性愛の模範」（教会憲章65番）なのです。世界病者の目の莊嚴な典礼は、グアダルルーベの聖母の大聖堂で捧げられます。それは、新大陸への最初の福音宣教を新たな福音宣教に結びつけるものです。実際、ラテン・アメリカの人々の間へ「福音はおとめマリアによって広められ、すばらしい実りをもたらされた。…そのうち次第にマリアの姿は、福音宣教の最初の頃に現われたグアダルルーベの聖母のような、現地の混血人の面影を反映するものとなった。」（プエブロ文書、一九七九年）こうして新世界では五百年間というもの、聖なる処女は「ラテン・アメリカ最初の福音宣教師」「福音宣教の星」としてあげられてきました。（新世界への福音宣教五百年に寄せて、ラテン・アメリカの男女修道者に宛てた手紙）

4

宣教の使命を果たすに当たり、聖マリアの取りなしに支えられ、力づけられてきた教会は、ラテン・アメリカの

★使徒ヨハネの第一の手紙には、親たちと子供たちに向かつてわかるがわる語りかけている箇所があります。親たち、つまり教師、教授、教育者たちに対しては、何と云っているのでしょうか。

あなたたちは初めからまします御方を知っている。（Iヨハネ2・13参照）だからあなたたちには、その知識の実りを伝えるべき義務がある。若者たちには何と書いているのでしょうか。その御方の名によって、あなたたちの罪は赦された。あなたたちは患者に勝つ

全ての知識はキリストへ...

た。あなたたちは強い者であり、みことばを内に保っている。（同2・12、14参照）世界各地から来られ、さまざまな教区、修道会、信徒団体に属しておられる学生の皆さん、今の言葉は皆さんに向けられているのです。使徒が話しかけているのは、実に皆さんなのです。皆さんは強い者で、悪に打ち勝ち、神の言葉は皆さんのうちにあります。神の言葉を宣言する人は大勢いても、隠れた教師（隠れた神）がおられます。神の言葉は皆さんの中にあります。「あなたたちをあらゆる真理に導く」（ヨハネ16・13）真理の霊です。教師にとつても、学生にとつても、真理の霊ご自身が先生な

病人と苦しむ人々への心づかいを怠ることはありませんでした。今日もなお、医療を通じての使徒職は、教会の使徒的活動の重要な柱の一つです。教会は人々への援助や世話の各方面で責任を負い、また極めて貧しい人々の間で、特に医療の分野に心を配りつつ働いています。それも人々の苦境への敏感さをつちかかってきた、多くの司教、司祭、修道者や一般信徒の寛大な

努力のおかげです。

福音の刷新において

指導的な役割を果たす

ラテン・アメリカから目を広く世界に転じれば、教会が病人に示す母のような心づかいの数々が映ります。今日なお、いや特に今日、苦しみという試練に会う人々の叫びが聞こえてきます。人々は戦争の惨禍に踏みじられているのです。今も続

★聖霊よ、来たり給え！

なぜ、使徒ヨハネは「世と世にあるものを愛するな」（Iヨハネ2・15）と若者

たちに向けて書いたのでしょうか。同じ使徒ヨハネは、福音書の中でキリストの言葉について述べています。「神は御独り子を与え給うほどこの世を愛された。」（ヨハネ3・16）手紙の中でヨハネは書いています。「世を愛するな。」（Iヨハネ2・15参照）しかしエズとニコデモの会話では、この世がより完全な愛に包まれるものだと言われているようです。実は、これこそ救いをもたらす愛の問題なのです。実際、御子はご自分によって世を救うために来られたのです。（ヨハネ3・17参照）では「愛するな」という言い

方は何を意味するのでしよう。愛とは、神から来る愛と一つになって、救いをもたらす贖い主の愛に加わるべきものだということです。この愛が、皆さんの精神と心と意志の中にある全ての力を一つに結びつけますように。罪の遺産である三重の欲望のため、この霊的力がそがれることありませんように。私たち誰もが心の中で、罪の遺産と、聖霊が注ぎ込んでくださった愛との戦いを経験します。聖霊は私たちに与えられた（ローマ5・5）御方であり、世々に変わることがありません。学生・教師の皆さん、学び続けてください。ストウーデル

（学べ）という言葉は人間の霊的な努力、永遠の価値を指向する努力を示しています。（…）（九二・十・二三）

称賛に値し、時には英雄的と

言うべき多くの医療関係者の努力や、次第に大きくなりつつあるボランティアの人々の貢献も、目下の必要を満たすためにはまだ間に合いません、苦しむ人を物質的に助けるのみならず、信仰という慰めに満たした展望を示して霊的にも支えてくれるような、寛大な心を持つ人々をもっとも増やしてください。主にお願ひしたいと思います。

います。

5 病に伏す人たち、またその苦しみを共にするご家族や医療関係者の皆さん。紀元二千年という大いなる祝祭を前にして、福音による刷新のため皆さんは指導的な役割を担っていることをどうか忘れないでください。新旧さまざまな形でなされる生命への攻撃が現代を象徴しているかのようにですが、皆さんはさながら主に触れようと参集した人々を思わせませう。「イエズスから力が出て全ての人を治すので、人々はみなイエズスに触れようと望んだ。」(ルカ6・19) ちょうどこのような群衆に向かつてイエズスは山上の説教を行ない、泣く人は辛いであると語られたのです。(同6・21参照) 苦しむこと、そして苦しむ人の傍らに居ること、誰であれ、信仰をもってこの二つの状況に生きる人は、キリストの苦しみに触れて「世の贖いの無限の宝の特別な部分」(「苦しみのキリスト教の意味」27番)を分かち持つことを許されます。

6

試練の中にある皆さん。その苦しみを寛大に捧げ、苦しむキリストとそのいと優しい御母マリアに、致してください。日々、苦しむ人のそばで働く皆さん。その奉仕を福

音宣教のための価値ある貢献に変えてください。教会の生きた部分であることを実感してください。なぜなら皆さんによってキリスト教共同体はキリストの十字架を抱き、福音の希望の理山を世に示す(Ⅰペトロ3・15参照) よう召されているからです。「苦しんでいるあなた方すべてに、私たちが助けてくださるようお願いします。私たちは、弱い者であるあなた方の弱さで、教会と人類のためにへ力の源となつてくださるよう、お願いしたいのです。現代世界の中で見られる善と悪の諸力の恐るべき戦いにおいて、あなた方の苦しみがキリストの十字架と一致することによって勝利を得るものでありますように！」(「苦しみのキリスト教的意味」31番)

7

私の訴えは、教会共同体の司牧者の皆さんと医療の使徒職に携わる人々にも向けられています。皆さんは来たる世界病者の日に備え、神の民と市民社会の目を健康や医療という膨大で複雑な問題に向けさせるためのプログラムに取り組みでおられます。

正義のない所に平和はない

医療に携わる医師、薬剤師、看護婦、病院つき司祭、男女の

修道者、為政者とボランティアの皆さん、そして特に、医療と病人の霊的な世話の分野では先駆者である女性の方々。皆さんには、病人と家族、教会共同体相互の交流を促進する責務があります。

病む人とその家族の傍らにあつて、彼らが苦しみのうちに見捨てられておられると感じることのないようにしてください。こうして苦しみという経験は、その人にとつて寛大に捧げることや学ぶ場となるでしょう。

8

同じ訴えを、公職につくあらゆる人々にも向けた

司教団へ

教会の教えを

あますところなく

信者に伝える

先頃、「世界若者の日の集い」に出席して、実に多くの若者たちが心から要を求め、教会とキリストに仕えんとしているありさまに深く感動しました。キリスト教の二千年目を迎えるこの若者たちは、司祭と司祭の助けを得て、キリストから与えられた貴重な真理の賜(ガラタイア5・1参照)に、致した生き方をしたいと願っています。真の司牧愛に満ちた牧

いと思います。世界中の苦しみを対話と話し合いと協力の契機とし、苦しむ人への心づかいを基にした文明を築こうとする教会の働きかけを受け入れ、さらに正義、自由、愛、平和を推し進めていただきたいのです。正義のない所に平和はあり得ません。平和がなければ、苦しみは際限なく増すばかりです。

苦しんでいる全ての人、また自らを捧げて働く人々のために聖母マリアの母としての助けを乞ひ願います。何世紀もの間グアダルルーベの聖堂で崇敬されてきたイエズスの御母、大いなる

者なら、キリストの救いの御言葉を伝えるにあたり、何物をも省いたりしません。新たな福音宣教の成否は、司教の皆さんが一致団結して効果的に、福音の命じること全てを宣言できるか否かにかかっています。信者は、教会の司教たちを「自分にゆだねられた民に信仰をのべ伝える真正なる師、すなわちキリストの権威を帯びる師」(教会憲章25番)とみなし

苦しみの叫びを聞き、苦しむ人々の涙をぬぐい、世界中の病人たちの傍らにおいでください。病に伏す友よ、聖なる処女が皆さんの捧げた苦しみを御子の前に運んでくださいますように。そこには十字架上のキリストの御顔が映っているのですから。

心からの祈りと共にこの願いを捧げつつ、私の使徒的祝福を送ります。バチカンにて、一九九五年十月十一日、教会の御母、祝された処女マリアの典礼を記念して。

ヨハネ・パウロ二世(署名)

ています。この点、私たち司教は絶えず「警戒の賜」を新たにしていかなければなりません。良き番人のように、「使徒たちの教えること」(使徒行録2・42参照)に専念し、「信仰の遺産」(神の啓示に関する教義憲章、10番参照)を守り、説き広める役目を帯びた私たちは、キリストとその教会についての知識を余すところなく宣べ続けねばなりません。「まことの福音」(ガラタイア2・5)を注意深く守り、熱心に宣言することがいかに困難であるかは百も承知です。聖アウグスティヌスは私たちの責任の重大さに注意を促しています。「キリスト信

不変の教え

者であるのみならず…私は指導者でもあるのだから、職務の報告書を神に提出しなければならぬ。」(説教46:司牧者について、2番)

● (現代文明の影響で多くの方が道徳感覚を失って苦しんでいます。信仰と道徳についてのカトリックの教えが疑問視されているのです。「キリストの秘義のすべて」を説き明かすべき私たちは、明快で首尾一貫した教えをもって、人々の問いかけに答えねばなりません。矛盾し合う意見の対立を乗り越えるには、真理の力をもってする以外ありません。)

信者には、カトリックの教えを完全な形で受け取る権利があります。ですから私たちは謙遜に、また勇氣と愛をもって注意を払っていただければなりません。誰も「キリストの福音を変えようとする」(ガラツィア1・6)人々に惑わされて誤りにおちいることのないように。全信者が「絶対に守るべきもの」として、教導職の示した教えについては、特にそうです。これらは、確固たる同意を必要としています。「教導職が信仰と道徳に関する真理を動かぬものとして示す時、たとえそれが神の啓示に含まれていなかったとしても、なおも厳密かつ根本

的に啓示と結び付いているのであって、確信をもって受け入れ、保たれねばならない。」(教理省「ドヌム・ヴェリタティス」23番、「信仰宣言と忠実の誓い」参照) 私たちには重大な責任があるのです。大いなる愛と忍耐をもって、「世の光」(ヨハネ8・12)キリストに絶えず目を向けつつ、信者たちの道徳心を形成しなければなりません。真理にしたがって判断し、行動することができるところに。また「信仰の要求するところに従い、生活の中で信仰を表すように教えること、また本来悪であるものは、そうした信仰の要求とは相いれないのだと教える」(「ドヌム・ヴェリタティス」16番)ことも必要です。福音書には生命の言葉として普遍かつ不変の道徳規範を見ることが出来ます。さらなる情熱と確信をもって、それを伝えなければなりません。大任ではあります、注意深い愛の表われとも言えるこの預言者的な役割を担う皆さん方一人ひとりに励ましを送りたいと思えます。信仰と道徳の「健全な教え」(「イティモテオ1・10」)を皆さんの教区のみならず、あらゆる可能な手段を用いて、常にあらゆる人々に伝えてください。(九三・九・十六)

兄弟姉妹の皆さん。

1 前回お約束した通り、三十年の時を隔てて第

二バチカン公会議を振り返り、考察してみたいと思えます。本日は、公会議の教え全体のかなめとも言えるべき教義文書「教会憲章」に注目しましょう。この文書によって、公会議は教会の真の姿に光を当てようとした。すなわち、人間的なものと神的なもの、見えるものと見えないものを併せ持つ、複合的ではばらしい教会というものの現実を示そうとしたのです。(8番参照)もし私たちが教会の本質について十分に、またその制度的な面をも見落とすことなく理解したいのなら、まず教会の秘義から考えていかなければなりません。このことを力強く印象づけたのは「教会憲章」の功績です。教会は秘義です。キリストに接ぎ木され、三位一体の生命に根付いているからです。人となられた神のみことばイエズスは「教会の面上に輝く光」(同一番)です。イエズスはイスラエルの先祖伝来の待望を成就させ、神の国の到来を告げました。こうし

公会議の鍵・教会憲章

て全ての国民を一つの新しい神の民に集め、聖霊の力によって彼らをご自分の体、花嫁として一致させられます。それは崇高な秘義で、洗礼を受けた者を一つに結び、聖性の高みを目指して絶えざる改心に駆り立てます。教会とはキリストの再臨をひたすら見つめながら歴史を通して旅を続ける民のことです。

2 神のみことばと最古の伝統に忠実な公会議のこの

3 いま私たちはマリアに祈りを捧げます。公会議の教父たちはこの基本的教義文書「教会憲章」の締めくくりに当たってマリアへの言及を怠りませんでした。それはこの教会論考察全体を完成させる、画竜点睛のようなものでした。祝された処女、教会の模範、教会の御母、公会議の教えに従って歩む私たちを助け、導いてください。紀元二千年という大きな祝いを迎える準備に鋭意専念するたため、公会議の教えを全キリスト者に向かって示したいと思えます。(九五・十・二二)

ら、まず教会の秘義から考えていかなければなりません。このことを力強く印象づけたのは「教会憲章」の功績です。教会は秘義です。キリストに接ぎ木され、三位一体の生命に根付いているからです。人となられた神のみことばイエズスは「教会の面上に輝く光」(同一番)です。イエズスはイスラエルの先祖伝来の待望を成就させ、神の国の到来を告げました。こうし

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説しながらそのままと伝える月刊紙 毎月十日発行 定価 一部百八十円 (送料とも) 一年予約 送料とも一〇五〇円から。詳しくは精進教育促進協会まで。

郵便振替 01130-8-72393